

## ニュージーランドの幼児教育（一）

マイケル・クーパー

松川 由紀子・訳

☆ ☆ ☆

マイケル・クーパー氏はニュージーランド教育省の幼児教育専門官である。政府が幼児教育行政を遂行していくように、幼児教育に関する諸事項を政府に助言すること、教師や地域の幼児教育行政官に専門的な指導、助言をすること、などが氏の任務である。かつて、教育大学において幼児教育に関する講義をしていたこともある。このたび、氏からニュージーランドの幼児教育に関する原稿

を寄せていただいたので、紹介したいと思う。（訳者）

☆ ☆ ☆

### I 幼稚園

ニュージーランドの幼稚園は、大きなプレイルーム、職員室、ロッカー室、倉庫、キッチンからなる平屋の建物である。幼児ひとりあたり約二・七平方メートルの室内遊び空間が必要とされている。ふつう、二名の教師が

四〇名（以内）の幼児を保育する。親たちは自発的に教師を援助する。すべての幼稚園に計画的に設置された広い園庭（舗装部分ならびに緑地）がある。

### (1) 幼稚園小史

最初の幼稚園は、私的機関によって一八八九年に設立された。児童援助会が幼稚園を設立した主たる機関であった。この会は、多くの子どもたちが貧困であったが故に幼稚園を設立した。多くの家庭にはあまりにも多くの子どもたちがいた。子どもたちは空腹で、汚なく、ぼろをまとい、粗悪な言葉を習っていた。児童援助会は、母親たちには援助が必要で、子どもたちも路頭に放任されていたとはいけない、と主張した。一九一〇年までには、すべての主な町に幼稚園が設けられた。

子どもたちは保護とともに教育が必要であった。最初の幼稚園は可能な限り教師を雇ったが、教師の数は少なかった。当時の教師は、英国においてフレイベルの幼児教育を学んだ者であった。特に、幼稚園が急速に設けら

れていた時期には、教師の数は充分ではなかった。

一九二〇年までに幼稚園は国内にすっかり広がっていた。一九三〇年から三五年までの経済不況時には、幼稚園を開いておくために、多くの教師が非常にわずかな俸給で働いた。人々は、その時期、非常に貧困であった。

一九三五年以降、人々の暮しも豊かになり、第Ⅱ次世界大戦の一九四五年以降は幼稚園は急速に増加し、六〇年に二〇七園、七〇年に三〇五園、今日は五三五園である。

幼稚園はいつも私的な機関によって設立されたのであるが、これらの機関は、一九〇四年以降、幼稚園協会と呼ばれている。この協会だけが幼稚園を設立し、政府の助成を受けることができる。全費用の約八十六パーセントが助成され、残りの約十四パーセントは幼稚園委員会によって支払われる。幼稚園は、子どもたちの保育料が無料でなければならない故に「フリーキンダーガルテン」と呼ばれている。多くの親が寄付をするけれども、費用は無料であるのである。また、いかなる宗教も幼稚

園では教えられてはならない。

〔訳注〕 ニュージーランドの幼稚園はすべてフリーキンダーガルテンである。個人的なキンダーガルテンは、ここでいう幼稚園には含まれず、社会福祉省管轄の児童保育センターのなかに保育所とともに含まれている。全国には地域ごとに入つの幼稚園協会があり、その連合が幼稚園連盟である。

## (2) 教育制度と幼稚園

一九六四年の教育法には、六歳から十五歳まですべての子どもに教育が与えられなければならないと述べられているが、実際には、約九十九パーセントの子どもたちが五歳の誕生日に小学校に入学している。幼児教育は義務教育ではないので、政府は教育を施す責任をもたないが、公的要求から、幼稚園を設立するために、政府をして幼稚園協会を援助させるに至った。

一九六四年の教育法は、幼稚園を管轄する規定をつくる法的力を政府に与え、幼稚園協会に幼稚園を運営する

ための助成金を交付する権限を政府に与えている。政府は幼稚園を管轄するために規定を作成したが、これらの規定が幼稚園規定と呼ばれているものである。

## (3) 幼稚園の概略

### ① 幼稚園のグレイド

幼稚園には各グレイドに応じて職員が置かれている。グレイドとはそこに何名の子どもたちがいるかを意味している。子どもたちの数によって教師の数が決まる。

第0グレイド——午前、午後の部、各幼児二十五名、

教師一名、助手一名。

第一グレイド——午前、午後の部、各幼児四〇名。主

任教師一名、教師一名。

第二グレイド——午前、午後の部、各幼児六〇名、主

任教師一名、教師二名。

〔訳注〕 第0ならびに第二グレイドは非常にわずかで、

ほとんどの幼稚園が第一グレイドである。

すべての幼稚園は、週五日午前中に開かれ、週三日午後には異なる子どもたちのために開かれる。教師たちは、週一回の午後を設備準備にあて、さらに週一回の午後を親たちとともに働く。午前の部は、八時四十五分から始まり、十一時四十五分に終わる。午後の部は、十二時四十五分から三時十五分までである。幼稚園は年間三八〇半日、開かれなければならない。

## ②教師の資格

すべての教師は、幼稚園連盟の発行する免状を有していなければならない。他のいかなる資格も容認されない。

この免状は、幼稚園教師の要求される唯一の免許証である。これは、国立の教育大学において学習ならびに実習の二カ年の課程を終えたと得られるものであるが、政府あるいは教育大学によって与えられるものではなく、幼稚園協会の連合を代表する幼稚園連盟によって与えられるものである。

## ③給料ならびに助成金

規定は政府に対し、幼稚園への支払いを援助するために幼稚園協会に助成金を交付するように、また教師の給料を支払うように、法的権限を与えている。今日交付されている金額は、次のとおりである。

○教師の給料（平均） 一四、七〇〇ドル（日本円で年間約二八〇万円）

○半日（セッション）分の助成金 四ドル一〇セント

（約七八〇円）

○設備 政府は価格の三分の二を支払う

○建物 政府は新設建物価格の五分の四を支払い、土地を無料で提供する。

## ④管理

政府は幼稚園一園あたり年間二四二ドル（約五三、六〇〇円）を幼稚園協会に支払う。

## ⑤幼児の年齢

幼児は三歳から入園し、五歳で卒園する。特別の事情のある場合は、二歳半で入園することができる。

#### ⑥教師の養成

教師は国立の教育大学において養成されるが、規定は、教育大学に対する助成金、ならびに実習生への奨学金を支払うように政府に権限を与えている。

#### (4) プログラム

教師は公的なプログラムの手引をもっていない。教師はなにをなすかについて専門的に判断しなければならない。多くの幼稚園において遊びと活動のプログラムが常に重要で、今日のプログラムは自由な遊びと活動のプログラムである。

初期にはフレibelが、そしてその後一九二〇—三〇年には進歩主義教育者たちが強い影響をもっていた。一九三七年にスーザン・アイザックスがニュージーランドにやってきて、教師たちは注意深く子どもたちを観察す

べきであると主張した。教師の観察は教育の重要な部分であった。スーザン・アイザックスは、子どもたちの興味に基づいた活動的なプログラムは幼ない子どもたちに重要であると考えていたが、多くの教師が彼女の考え方に賛意を表わした。最近では、ブルーナーやピアジェの仕事が影響を与え、特にピアジェの仕事は多くの教師養成のプログラムの中心で、子どもの発達に関する教授の主たる源になっている。

〔訳注〕 スーザン・アイザックス (Susan Isaacs, 1855-

1936) は英国の著名な心理学者、進歩主義教育者で、保育学校の教育改革に強い影響を及ぼした。

多くの教師は、子どもの発達に関する知識に基づいてプログラムを組み、知的、身体的、社会的ならびに情緒的経験に対する子どもの要求に合うように努めている。

子どもは、何をするのか自身で選び、教師は、子どもたちのために広く変化に富んだ諸活動の準備をする。子どもたちがひとつの活動から他の活動へとたやすく動けるように、ふつう各コーナーが設けられている。典型

的な幼稚園のプログラムは次に掲げるすべての活動を準備しているだろう。

。室内

画架への描画

ブロックならびに組立て

絵本ならびにお話

パズル

練粉遊び

操作的活動(数珠つなぎ)

ままごとあるいは役割遊び

音楽

切り貼り(カラーシユ)

劇、想像遊び

。室外

砂遊び

ブランコ

水遊び

大工遊び

木登り

教師たちは、これらのプログラムが全面的な子どもに発達させると考えている。彼らは、身体的、知的、社会的ならびに情緒的なあらゆる面の発達を考慮しているのである。教師の役割は、年齢ならびに子どもの発達段階に適した興味ある諸活動を計画することである。教師は遊びを見守り、子どもたちが活動している間に援助した

り、指導のポイントを見積ったりして参加する。

こうしたプログラムは自由選択自由活動プログラムであるとよくいわれる。多くの教師は、子どもたちが降園する直前によく子どもたちを集めて、お話をしたり、歌を歌ったりする。

(5) 親の役割

幼稚園の諸活動において親たちは重要な役割を演じている。教師は親たちを教育プログラムのなかに包含しなければならぬ。親たちはしばしば教師を自発的に援助するが、これらの親はベアレントヘルパーと呼ばれている。ふつう、二、三名のベアレントヘルパーが日々の保育に参加している。

教師は週一回の午後、親たちといっしょに働くことを許されていて、その午後には子どもたちは幼稚園にこない。教師はまもなく入園する子どもたちの親たちを訪問したりする。教師たちはこうした親たちや入園前の子どもたちに喜んで会い、幼稚園やベアレントヘルパーの制度に

ついで説明する。親たちは、教師に幼稚園について多く質問するだろう。親たちといっしょに働くことによつて、教師たちは、子どもたちならびに子どもたちの成長、発達の望ましい姿について親たちを指導することを願っている。

どの親たちも幼稚園委員会に参加して、幼稚園の経費の支払いを援助するために働いてもよい。政府の助成金は多額であるが、幼稚園の望むすべての設備を購入するには不可能である。

募金に加えて、委員会は幼稚園の手入れをよくして室内外を整頓しておく。委員会は幼稚園を管轄する。協会が教師たちを雇用するが、政府が給料を支払う。協会は新しい幼稚園を設立する。協会は新設幼稚園の経費の五分の一を集めなければならない。残りの五分の四は政府が支払う。親たちは非常によく委員会に包含されているので、実際には親たちが幼稚園の管理、運営面を握っている。

## (6) 結び

ニュージーランドの幼稚園は日本の幼稚園より小規模のものである。教師一名につき幼児二〇名の割合である。教師たちは、子どもたちが学んでいくには自由選択活動プログラムが最善であると考えている。三、四歳の幼児が通園して、五歳の誕生日には小学校に入学する。幼稚園は幼稚園協会という私的な機関によって運営されている。親たちが幼稚園協会の会員である。多くの親たちが若干の自発的な寄付をすけれども、保育の費用は無料である。政府が幼稚園の経費の約八十六パーセントを支払う。

(続く)

